

室宮山古墳(御所市)

前方が室宮山古墳/前方部、後円部とも三段築成の前方後円墳/5世紀初頭の築造/左手前が後円部、右奥が前方部/墳丘の東側と南側に周濠、その周囲には周堤が巡っている/前方部北側に造出し状の張出しがある/墳丘斜面には葺石が施されていた/北東側から見たところ



東側から後円部に近づく



ここは後田部の麓にある八幡神社



説明板が立っている



後円部には、2基の竪穴式石室が南北に並列して配置されている/その主体部を囲むように円筒埴輪と形象埴輪で構成された二重の方形埴輪列が巡っている/石棺保護の為に石組みを行い天井石を乗せている/埋葬施設はこの他にも前方部墳頂と前方部北側張出し部にもあると云う

史跡 宮山古墳

Historic Site Designated by Japan : Miyayama Burial Mound

宮山古墳は奈良盆地南西部の端に位置する古墳時代中期初頭（5世紀初頭）の前方後円墳で、葛城地域では最大の規模を誇る。墳丘長は238mで、後円部を東、前方部を西に向けている。墳丘の周囲には周濠、その周囲には周堤が巡っている。後円部、前方部ともに三段築成で、各段の平坦面には円筒埴輪が並べられ、墳丘斜面には花崗岩の葺石が施されていた。

後円部の最上段には直径38m、高さ3mの円丘段があり、その上面には盾形、甲冑形、鞍形、冢形などの形象埴輪と円筒埴輪を立て並べた方形区画がつくられている。後円部には、2基の竪穴式石室が南北に並列して配置されており、南石室では竜山石製の長持形石棺が確認され、三角縁神獸鏡や玉類、石製品、三角板革綴短甲、鉄刀などが出土した。

前方部頂には粘土槨とみられる埋葬施設が確認され、11面以上の銅鏡の存在が確認されている。また、前方部北側には一辺約50mの方形の張出しがあり、その頂部では粘土槨が確認され、短甲や鉄鏃、鉄刀などが出土した。

宮山古墳は、奈良盆地から紀伊あるいは河内へとつながる交通路が交差する要衝に位置している。後円部から朝鮮半島の伽耶地域産とみられる陶質土器も出土しており、被葬者が大陸と積極的なつながりを持っていたと考えられる。

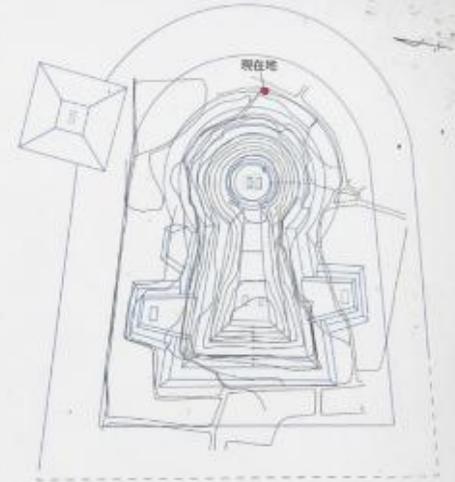
平成27年8月 奈良県教育委員会

所在地：御所市室 1322 番ほか
Location : Muro, Gose-shi, Nara

指定日：大正10年3月3日
Date of Designation : March 3, 1921

年代：5世紀初頭
Date of Construction : Early 5th century

墳丘：前方後円墳
墳丘長 238 m
後円部径 148 m
前方部幅 152 m程度
Mound shape : A circular shape with a rectangular frontage
Mound (238 m)
Circular part (148 m)
Rectangular part (152 m)



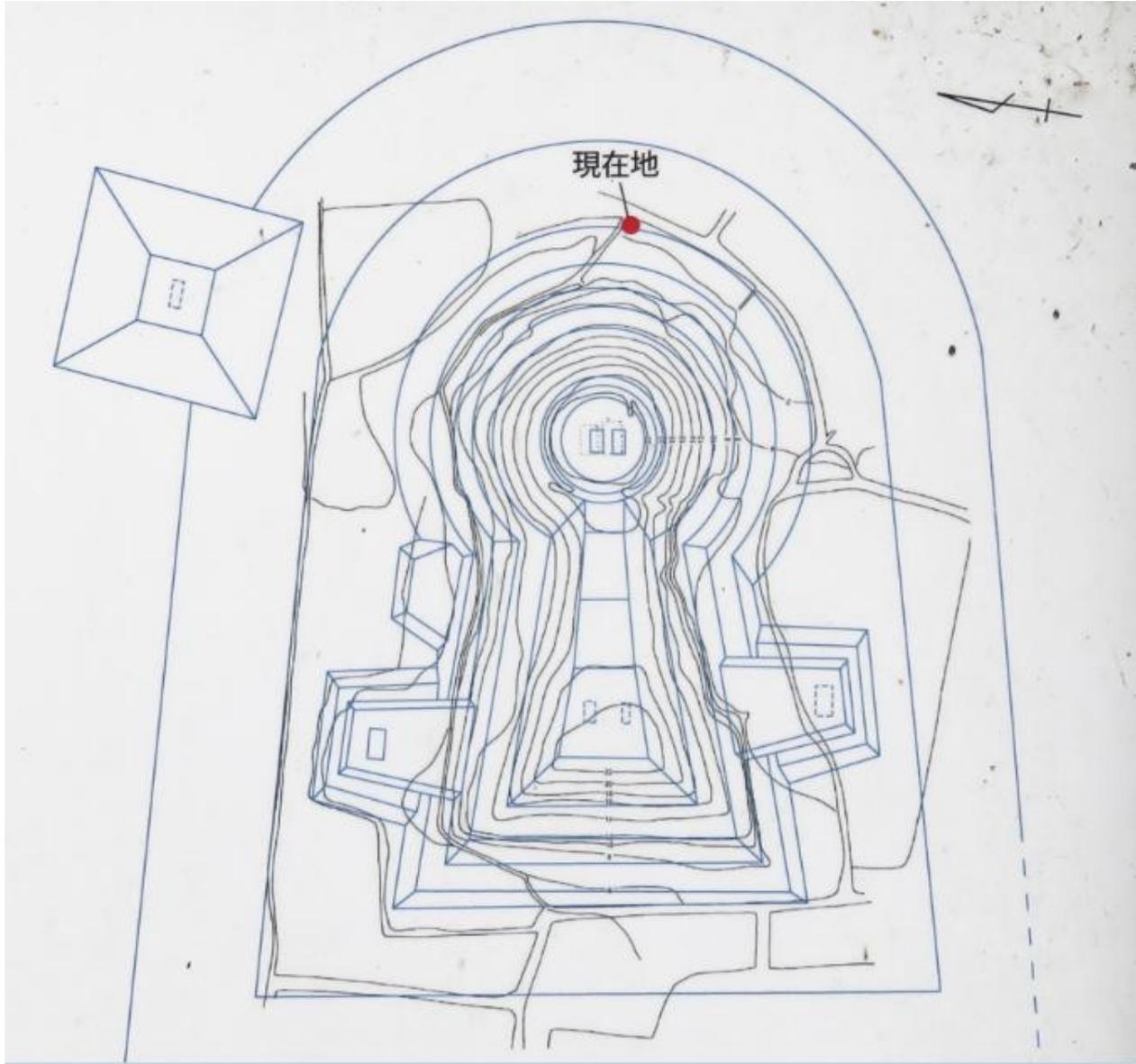
墳丘復元図



後円部から出土した形象埴輪



長持形石棺



八幡神社をしてみよう



説明板と標柱が立っている



孝安天皇の室秋津島宮跡がこの辺りであること、室宮山古墳の被葬者として武内宿禰説が記されている

八幡神社

御祭神 誉田別尊（漢風諡号 応神天皇）

由緒 本殿は方一間、春日造り、境内社には春日神社と稻荷神社がある。

本社に奉納された絵馬には農耕の場面を描いたものがあって、民俗資料として貴重である。

第六代、孝安天皇（日本足彦国押人尊）の室秋津宮跡は本社の辺りとされる。背後には宮山古墳があつて、南葛城地方最大の規模を有するものとして著名である。武内宿禰のとも言われるが確証はない。

平成四年五月吉日

御所市教育委員会

寄贈 御所ライオンズクラブ

振り返って境内を見たところ/前方にも標柱が立っている





こちらは「神武天皇遙拝所」



こちらの階段から後円部に登って行く



こちらは境内社か



階段を登ろう



前方が開けて来た



後円部の墳頂に到着



ここが後円部墳頂



後円部の中央辺りに窪みがある/左手には何やら立っている/説明坂もあるようだ



靱型埴輪の複製(実物大)が展示されている/この辺りには北石室があるようだ



石室を囲む埴輪列

後円部にある南北2つの石室をそれぞれ長方形に取り囲み、幾重にも埴輪が立て並べられた。主体部の周囲の埴輪列の状況がこれほど見事にわかった古墳はまれである。

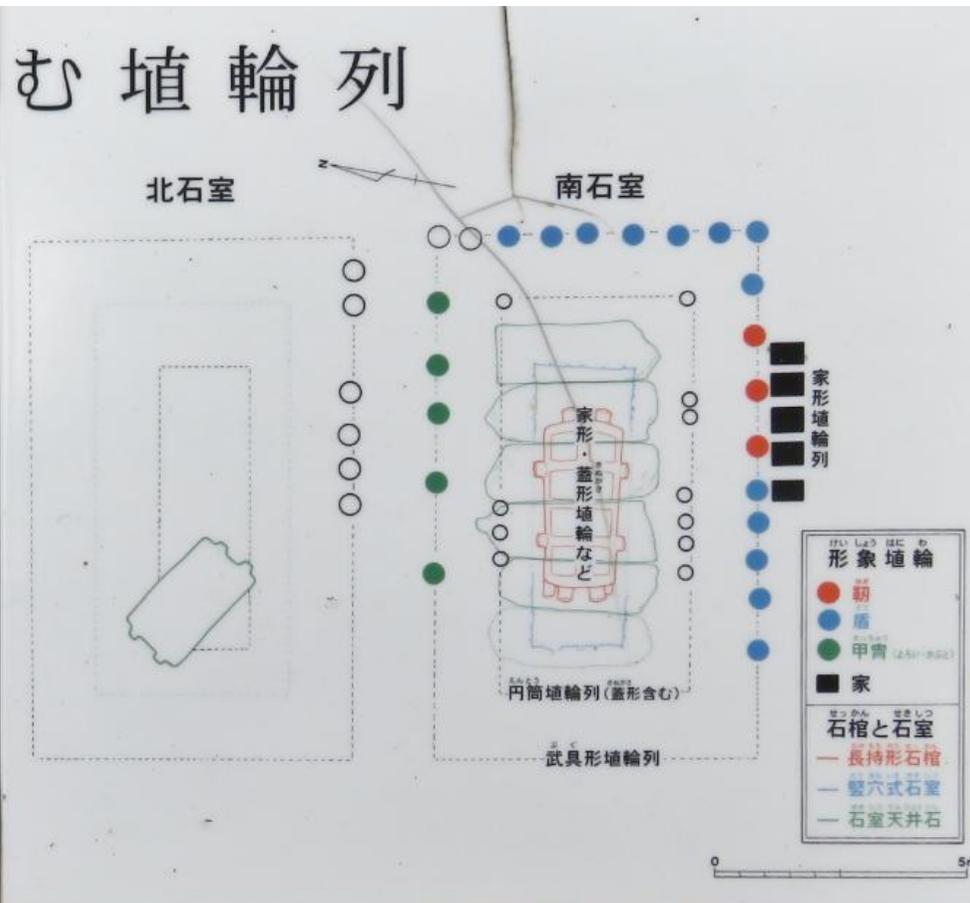
石室の南側には、入口を南に向けた5棟の家形埴輪が軒を接して並べられ、被葬者が生前に居住した館の大きさを偲ばせる。

その内側には鞆・盾・甲冑といった武具形の埴輪が取り囲む。ちなみに、本来の鞆は革で作られ、矢の束を背負って運ぶもの。盾もまた革製で、撃たれた矢を防ぐ。甲冑は鉄製で、防禦のために身体に着用するものであった。

その正面はいずれも外側を向いて置かれており、まさに聖域への侵入を防ぐかのような。生前の被葬者を護衛した親衛隊の武装状態を表現したものかもしれない。

次いで、その内側には蓋形埴輪や円筒埴輪などの1列があり、さらに石室の上には大形の家形埴輪や蓋形埴輪が立て並べられた。

復元された鞆形埴輪は高さ1.43mの雄大な形象をなしたもので、矢尻(鉄鏃)や背負い紐(ベルト)の表現なども極めて写実的である。体部には直弧文を刻む。



説明板と窪みがある



雄大な長持形石棺

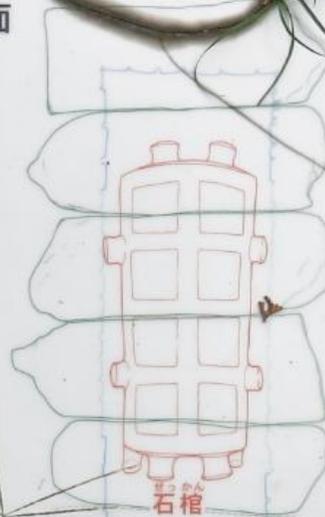
後円部に2つある主体部のうち、この南側のたてあなしきせきしつ 竪穴式石室には豪
 壮な長持形石棺が収められている。長持形石棺は5世紀代の大
 王墓級の古墳のみが採用できた石棺で、宮山古墳被葬者の当時
 の権勢の大きさが偲ばれる。

この石棺の石材は遠く兵庫県の加古川流域から運ばれたたつやま 竜山
 石で、底石1枚、側石2枚、小口石2枚、蓋石1枚の計6枚で
 構成され、全面に朱が塗られている。

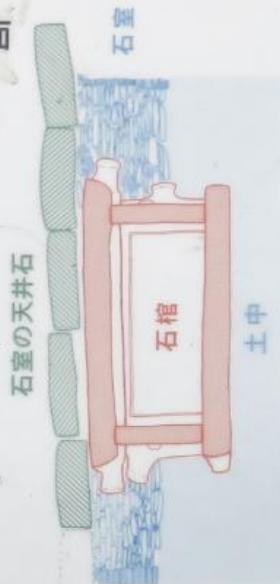
蓋石の頂部には8区画の亀甲形の装飾が彫られ、各辺には2
 個ずつの縄掛突起がある。棺蓋の長さは、縄掛突起を含めると3.77m
 もあって、稀に見る雄大なものである。側石の縄掛突起や小口石
 の方形の装飾突起2つにも注目してほしい。

この長持形石棺は、竪穴式石室に収められたままの状態で見
 学できる、全国でも唯一の貴重な資料である。

平面



断面



石室
 石室の天井石

たてあなしきせきしつ 竪穴式石室と長持形石棺 ながもちがたせっかん



これは南側の竪穴式石室/中を覗いてみる



石室内の長持形石棺/この縄掛突起長持式石棺の蓋石上面には格子亀甲文とよばれる矩形の装飾的な削溝があり、津堂城山古墳の石棺に類例があるだけという貴重な石棺と云う



石棺本体に穴があり、その下にも突起が見える



石棺内部は朱が残っているように見える/天井部は少し丸く窪んでいる



この先の前方部方向は藪に覆われていて踏み込めない



正面は南側から見た後円部/左手が前方部/手前の溜池は周濠の名残りか



参考ホームページ

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2016/12/04/000000>

https://74589594.at.webry.info/200807/article_8.html

<https://www.travel.co.jp/guide/article/12265/>

<http://www.kashikoken.jp/museum/yamatonoiseki/kofun/2018%20muromiyayama.html>

https://seesaawiki.jp/w/ksg_recon/d/%BC%BC%B5%DC%BB%B3%B8%C5%CA%AF

